



CHAPTER 3

NAM CLI コマンド email ~ logout

この章では、次のコマンドについて説明します。

- [email](#)
- [entity alias](#)
- [entity assetid](#)
- [exit](#)
- [exsession](#)
- [ftp](#)
- [help](#)
- [ip address](#)
- [ip broadcast](#)
- [ip domain](#)
- [ip gateway](#)
- [ip host](#)
- [ip hosts add](#)
- [ip hosts delete](#)
- [ip http port](#)
- [ip http secure generate](#)
- [ip http secure install certificate](#)
- [ip http secure port](#)
- [ip http secure server](#)
- [ip http server](#)
- [ip http tacacs+](#)
- [ip interface](#)
- [ip nameserver](#)
- [license install](#)
- [logout](#)
- [managed-device address](#)

- [managed-device community](#)

email

電子メールでアラームとレポートの両方のデータを送信する電子メール サーバを設定し、電子メールで送信するアラーム メッセージをイネーブまたはディセーブにし、サブコマンド モードを開始するには、**email** コマンドを使用します。電子メール サーバを削除するには、**no email server** コマンドを使用します。電子メールによるスケジューリングされたレポート データとアラーム メッセージの両方の送信を中止するには、**no email alarm** コマンドを使用します。

email

no email server

no email alarm

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード



使用上のガイドライン

(注) 受信者は、アラーム メッセージ受信者です。レポート データ受信者は CLI ではサポートされません。

電子メール サブコマンド モードを開始すると、次のコマンドを使用します。

- **?** または **help** : ヘルプを表示します。 **help** コマンドの項を参照してください。
- **cancel** : 変更を廃棄し、サブコマンド モードを終了します。
- **exit** : 変更を保存し、サブコマンド モードを終了します。 **exit** コマンドの項を参照してください。
- **server email-server** : 電子メール サーバ名を指定します。
- **alarm enable** : 電子メールによるアラーム メッセージの送信をイネーブにします。
- **alarm disable** : 電子メールによるアラーム メッセージの送信をディセーブにします。
- **alarm recipients space-separated-list-of-email-addresses** : 電子メール アドレス (admin@domain.com、user@domain.com など) のリストです。

例

次に、NAM を設定し、電子メールによって、スケジューリングされたレポートを abc@example.com および xyz@example.com に送信する例を示します。

```
root@localhost# email
proot@localhost(sub-email)# server example-email.domain.com
root@localhost(sub-email)# alarm enable
root@localhost(sub-email)# alarm recipients admin@domain.com another_admin@domain.com
root@localhost(sub-email)# exit
```

```
Successfully set email configuration settings.
```

関連コマンド [show debug metric-engine](#)

entity alias

エンティティ MIB のエンティティ エイリアスを設定するには、**entity alias** コマンドを使用します。

entity alias *string*

構文の説明

string entPhysicalAlias を設定するために使用するエンティティ スtring を指定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

エンティティ MIB により、entPhysicalTable および entLastChangeTime が SNMP で使用できるようになります。

clear configuration コマンドは、エンティティ エイリアスおよび資産 ID を空の String に設定することにより、これらを削除します。

例

次に、NAM からログアウトする例を示します。

```
root@localhost# entity alias 123456
```

関連コマンド

[show entity](#)

entity assetid

エンティティ MIB 資産 ID を設定するには、**entity assetid** コマンドを使用します。

entity assetid *string*

構文の説明

string entPhysicalAssetID を設定するために使用するエンティティ ストリングを指定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

エンティティ MIB により、entPhysicalTable および entLastChangeTime が SNMP で使用できるようになります。

clear configuration コマンドは、エンティティ エイリアスおよび資産 ID を空のストリングに設定することにより、これらを削除します。

例

次に、NAM からログアウトする例を示します。

```
root@localhost# entity assetid 1234566
```

関連コマンド

[show entity](#)

exit

システムからログアウトするか、またはサブコマンド モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンド モード

コマンド モード

使用上のガイドライン

サブコマンド モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。**exit** コマンドは、サブモードを終了する前に変更内容を保存します。

例

次に、NAM からログアウトする例を示します。

```
root@localhost# exit
```

exsession

外部ログインをイネーブルまたはディセーブルにするには、**exsession** コマンドを使用します。

exsession on [ssh]

exsession off

構文の説明

on	外部ログインをイネーブルにします。
off	外部ログインをディセーブルにします。
ssh	(任意) 外部ログインを SSH に設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

ssh オプションを使用する場合は、強力な暗号化パッチが必要です。

例

次に、NAM への外部ログインを許可する例を示します。

```
root@localhost# exsession on
```

ftp

スケジューリングされたレポートの保管のために FTP サーバおよびディレクトリを設定するには、**ftp** コマンドを使用します。FTP のスケジューリングされたレポートをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ftp

no ftp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

FTP サブコマンドモードを開始すると、次のコマンドを使用できます。

- **?** または **help** : ヘルプを表示します。**help** コマンドの項を参照してください。
- **cancel** : 変更を廃棄し、サブコマンドモードを終了します。
- **directory WORD** : FTP サーバ上の FTP の場所を指定します。
- **exit** : 変更を保存し、サブコマンドモードを終了します。**exit** コマンドを参照してください。
- **password WORD** : FTP サーバにユーザパスワードを指定します。
- **index** : FTP エントリを識別する一意の整数
- **user WORD** : FTP サーバにユーザ名を指定します。
- **server WORD** : FTP サーバ名または IP アドレスを指定します。

例

次に、スケジューリングされたレポートの保管のために FTP サーバを設定する例を示します。

```
root@localhost# ftp
Entering into subcommand mode for this command.
Type 'exit' to apply changes and come out of this mode.
Type 'cancel' to discard changes and come out of this mode.

root@localhost(sub-ftp)# ?
?                - display help
cancel           - discard changes and exit from subcommand mode
directory        - FTP location at the FTP server
exit             - exit from subcommand mode
help             - display help
index            - a unique integer identifying the ftp entry
password         - password of the user at the FTP server
server           - set FTP server
user             - user name at the FTP server
```


help

ヘルプを表示するには、**help** コマンドまたは **?** を使用します。**?** を入力したあとは、Enter キーを押す必要があります。

help | ?

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモードまたはサブコマンドモードです。

例

次に、ヘルプを表示する例を示します。

```
nam.domain.com# help
?
application          - configure an application [group]
audit-trail           - enable logging Web GUI and CLI accesses
autocreate-data-source - enable data source autocreation feature
clear                 - clear access log / system alerts
```

ip address

システムの IP アドレスを設定するには、**ip address** コマンドを使用します。

ip address ip-address subnet-mask

構文の説明

<i>ip-address</i>	システムの IP アドレスを設定します。
<i>subnet-mask</i>	サブネットマスクを設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

IP アドレスの設定後、ゲートウェイアドレスは **0.0.0.0** に設定されることがあります。この状況が発生した場合、**ip gateway** コマンドを使用してゲートウェイアドレスを設定します。

ブロードキャストアドレスは、新しい IP アドレスとネットワーク マスクを使用して作成されるアドレスで、自動的に設定されます。異なるブロードキャスト アドレスを選択するには、**ip broadcast** コマンドを使用します。

例

次に、システムの IP アドレスを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip address 172.20.104.74 255.255.255.192
IP address and netmask configured successfully.
NOTE: Default gateway address has been reset to 0.0.0.0
Please use 'ip gateway' command to configure it.
root@localhost# ip gateway 172.20.104.66
root@localhost# show ip
IP address:                172.20.104.74
Subnet mask:               255.255.255.192
IP Broadcast:             172.20.255.255
DNS Name:                  namlab-kom8.cisco.com
Default Gateway:          172.20.104.66
Nameserver(s):            171.69.2.133
HTTP server:               Enabled
HTTP secure server:       Disabled
HTTP port:                 80
HTTP secure port:         443
TACACS+ configured:       No
Telnet:                    Enabled
SSH:                       Disabled
root@localhost#
```

関連コマンド

ip broadcast
ip domain
ip host
show ip

ip broadcast

システムのブロードキャスト アドレスを設定するには、**ip broadcast** コマンドを使用します。

ip broadcast *broadcast-address*

構文の説明

broadcast-address システムのブロードキャスト アドレスを設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、システムのブロードキャスト アドレスを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip broadcast 172.20.104.127
root@localhost#
```

関連コマンド

[ip address](#)
[ip domain](#)
[ip host](#)
[show ip](#)

ip domain

システムのドメイン名を設定するには、**ip domain** コマンドを使用します。

ip domain *name*

構文の説明

<i>name</i>	システムのドメイン名を設定します。
-------------	-------------------

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、IP ドメイン名を設定する例を示します。

```
root@nam# ip domain cisco.com
root@nam.cisco.com#
```

関連コマンド

[ip address](#)
[ip domain](#)
[ip host](#)
[show ip](#)

ip gateway

システムのデフォルト ゲートウェイ アドレスを設定するには、**ip gateway** コマンドを使用します。

ip gateway default-gateway

構文の説明

default-gateway デフォルト ゲートウェイ アドレスを設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンド モード

例

次に、IP ゲートウェイ アドレスを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip gateway 123.34.56.0
```

関連コマンド

[ip address](#)
[ip broadcast](#)
[ip host](#)
[show ip](#)

ip host

システムのホスト名を設定するには、**ip host** コマンドを使用します。

ip host *name*

構文の説明

<i>name</i>	IP ホスト名を設定します。
-------------	----------------

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、IP ホスト名を設定する例を示します。

```
root@NAM.cisco.com# ip host orion
root@orion.cisco.com#
```

関連コマンド

[ip address](#)
[ip domain](#)
[show ip](#)

ip hosts add

ホスト エントリを追加、または置き換えるには、**ip hosts add** コマンドを使用します。

```
ip hosts add ip-address host-name [alias1] [alias2]
```

```
ip hosts add ftp://user:passwd@host/full-path/filename
```

構文の説明

<i>ip-address</i>	ホスト IP アドレスを設定します。
<i>host-name</i>	FTP URL となりうるホスト名をファイル名で設定します。
alias1 alias2	(任意) ホストエイリアスを設定します。
<i>ftp://user:passwd@host/full-path/filename</i>	ホスト パラメータのファイルの場所へのパスを設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

NAM にホスト エントリをインポートするには、**ip hosts add** *ftp://user:passwd@host/full-path/filename* コマンドを使用します。最大 1,000 エントリを NAM に含めることができます。

例

次に、特定の IP ホストを追加する例を示します。

```
root@localhost# ip hosts add 30.50.68.10 orion
```

関連コマンド

ip hosts delete
show hosts

ip hosts delete

ホスト エントリを削除するには、**ip hosts delete** コマンドを使用します。

ip hosts delete *ip-address*

ip hosts delete *ftp://user:passwd@host/full-path/filename*

構文の説明

<i>ip-address</i>	ホスト IP アドレスを設定します。
<i>ftp://user:passwd@host/full-path/filename</i>	ホスト パラメータのファイルの場所へのパスを設定します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、特定の IP ホストを削除する例を示します。

```
root@localhost# ip hosts delete 30.50.68.10 orion
```

関連コマンド

[ip hosts add](#)
[show hosts](#)

ip http port

HTTP ポートを設定するには、**ip http port** コマンドを使用します。

ip http port 1-65535

構文の説明

1-65535 ポート番号を 1 ~ 65535 の範囲で指定します。

すべてのポートが割り当て可能であるとは限りません。ほとんどのブラウザは、その他のアプリケーションで使用されるポートをブロックします。表 3-1 に、通常はブロックされるポートを示します。

表 3-1 通常はブロックされるポート

ポート	アプリケーション	ポート	アプリケーション	ポート	アプリケーション	ポート	アプリケーション
1	tcpmux	43	nicname	117	uucp-path	531	chat
7	echo	53	domain	119	NNTP	532	netnews
9	discard	77	priv-rjs	123	NTP	540	uucp
11	systat	79	finger	135	loc-srv / epmap	556	remotefs
13	daytime	87	ttylink	139	netbios	563	NNTP+SSL
15	netstat	95	supdup	143	IMAP2	587	submission
17	qotd	101	hostriame	179	LDAP	601	syslog
19	chargen	102	iso-tsap	389	LDAP	636	LDAP+SSL
20	ftp data	103	gppitnp	465	SMTP+SSL	993	IMAP+SSL
21	ftp control	104	acr-nema	512	print / exec	995	POP3+SSL
22	ssh	109	POP2	513	login	4045	lockd
23	telnet	110	POP3	514	shell	6000	X11
25	smtp	111	sunrpc	515	printer		
37	time	113	auth	526	tempo		
42	name	115	sftp	530	courier		

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、NAM の HTTP ポートを指定する例を示します。

```
root@localhost# ip http port 233
```

■ ip http port

関連コマンド

[ip http secure generate](#)
[ip http server](#)
[ip http tacacs+](#)
[show ip](#)

ip http secure generate

証明書要求を生成するには、**ip http secure generate** コマンドを使用します。

ip http secure generate {certificate-request | self-signed-certificate}

構文の説明

certificate-request	証明書要求を生成します。
self-signed-certificate	自己署名した証明書を生成します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、セキュア サーバを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip http secure generate certificate-request
```

関連コマンド

[ip http port](#)
[ip http secure install certificate](#)
[ip http server](#)
[ip http tacacs+](#)
[show ip](#)

ip http secure install certificate

証明書をインストールするには、**ip http secure install certificate** コマンドを使用します。

ip http secure install certificate

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、セキュア サーバを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip http secure install certificate
```

関連コマンド

ip http port
ip http secure generate
ip http server
ip http tacacs+
show ip

ip http secure port

セキュア サーバ ポートを設定するには、**ip http secure port** コマンドを使用します。

ip http secure port *port*

構文の説明

<i>port</i>	HTTP セキュア ポートを設定します。
-------------	----------------------

すべてのポートが割り当て可能であるとは限りません。ほとんどのブラウザは、その他のアプリケーションで使用されるポートをブロックします。表 3-1 に、通常はブロックされるポートを示します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、セキュア サーバ ポートを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip http secure port 30
```

関連コマンド

ip http port
ip http secure generate
ip http secure install certificate
ip http server
ip http tacacs+
show ip

ip http secure server

セキュア サーバを設定するには、**ip http secure server** コマンドを使用します。

ip http secure server {enable | disable}

構文の説明

server enable | disable HTTP サーバをイネーブ爾またはディセーブ爾にします。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

このコマンドを適用する前に、強力な暗号化パッチが必要です。

例

次に、セキュア サーバを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip http secure server enable
```

関連コマンド

[ip http port](#)
[ip http secure generate](#)
[ip http secure install certificate](#)
[ip http server](#)
[ip http tacacs+](#)
[show ip](#)

ip http server

HTTP サーバをイネーブルにするには、**ip http server** コマンドを使用します。

ip http server {enable | disable}

構文の説明

enable	HTTP サーバをイネーブルにします。
disable	HTTP サーバをディセーブルにします。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、HTTP サーバをイネーブルにする例を示します。

```
root@localhost# ip http server enable
```

関連コマンド

[ip http port](#)
[ip http secure generate](#)
[ip http tacacs+](#)
[show ip](#)

ip http tacacs+

TACACS+ サーバをイネーブルにするには、**ip http tacacs+** コマンドを使用します。

```
ip http tacacs+ enable primary-srv [backup-srv] [en-secret-key encrypted-secret-key]
```

```
ip http tacacs+ disable
```

構文の説明

disable	TACACS+ サーバをディセーブルにします。
enable	TACACS+ サーバをイネーブルにします。
<i>primary-srv</i>	プライマリ TACACS+ サーバを指定します。
backup-srv	(任意) バックアップ TACACS+ サーバを指定します。
en-secret-key	(任意) 秘密キーをイネーブルにするための引数名。
<i>encrypted-secret-key</i>	(任意) 引数値。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

en-secret-key キーワードは、NAM コンフィギュレーションをインポートする際にのみ使用します。このキーは、この例のように、DES 暗号化ストリングをこのキーワードの引数として指定しないかぎり使用できません。

```
root@localhost# ip http tacacs+ enable 10.0.0.1 10.0.0.2 en-secret-key "dEAF="
```

例

次に、TACACS+ をイネーブルおよびディセーブルにする例を示します。

TACACS+ をイネーブルにするには、次のコマンドを入力します。

```
root@hostname.cisco.com# ip http tacacs+ enable 10.0.0.1 10.0.0.2
Secret key:
Repeat secret key:
Successfully enabled Tacacs+
root@hostname.cisco.com# show ip
IP address:                172.20.98.177
Subnet mask:                255.255.255.192
IP Broadcast:              172.20.255.255
DNS Name:                   hostname.cisco.com
Default Gateway:           172.20.98.129
Nameserver(s):             171.69.2.133
HTTP server:                Enabled
HTTP secure server:        Disabled
HTTP port:                  80
HTTP secure port:          443
TACACS+ configured:        Yes
TACACS+ primary server:    10.0.0.1
TACACS+ backup server :    10.0.0.2
Telnet:                     Enabled
```



```
SSH: Disabled
root@hostname.cisco.com#
```

TACACS+ をディセーブルにするには、次のコマンドを入力します。

```
root@hostname.cisco.com# ip http tacacs+ disable
TACACS+ disabled successfully.
root@hostname.cisco.com# show ip
IP address: 172.20.98.177
Subnet mask: 255.255.255.192
IP Broadcast: 172.20.255.255
DNS Name: hostname.cisco.com
Default Gateway: 172.20.98.129
Nameserver(s): 171.69.2.133
HTTP server: Enabled
HTTP secure server: Disabled
HTTP port: 80
HTTP secure port: 443
TACACS+ configured: No
Telnet: Enabled
SSH: Disabled
root@hostname.cisco.com#
```

関連コマンド

```
ip http port
ip http secure generate
ip http server
show ip
```

ip interface

NM-NAM の外部ポートまたは内部ポートを選択するには、**ip interface** コマンドを使用します。

ip interface external | internal



(注)

このコマンドは、NAM-1 または NAM-2 デバイス、Cisco NAM 2200 シリーズ アプライアンス、または Cisco NAM 仮想ブレードには無効です。

構文の説明

external	NME-NAM の RJ-45 ファスト イーサネット コネクタを選択します。
internal	NME-NAM への IP 通信のための PCI インターフェイス (Telnet、SNMP、HTTP など) を介したルータまでの内部 LAN セグメントを選択します。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンド モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、NME-NAM でのみサポートされます。

例

次に、NME-NAM のインターフェイス ポートを指定する例を示します。

```
root@localhost# ip interface external
```

関連コマンド

[ip address](#)
[show ip](#)

ip nameserver

システムのネーム サーバ エントリを設定するか、またはディセーブルにするには、**ip nameserver** コマンドを使用します。

```
ip nameserver ip-addr ip-addr ip-addr
```

or

```
ip nameserver disable
```

構文の説明

<i>ip-addr</i>	ネーム サーバ アドレスを設定します。
disable	ネーム サーバのエントリをディセーブルにします。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンド モード

例

次に、システムのネーム サーバを設定する例を示します。

```
root@localhost# ip nameserver 171.69.2.133
```

関連コマンド

[ip address](#)
[show ip](#)

license install

NAM 仮想ブレード ソフトウェアがインストールされた WAE デバイスにライセンス ファイルをインストールするには、**license install** コマンドを使用します。

license install *url*

構文の説明

<i>url</i>	インストールするライセンス ファイルの場所を指定します。 <i>ftp://<username>@<host>/<path>/<license_filename></i>
------------	--

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、NAM WAAS 仮想ブレード プラットフォームでのみ有効です。

例

次に、NAM がインストールされた WAE デバイスにライセンス ファイルをインストールする例を示します。

```
root@localhost# license install ftp://joseph@host_name/usr/
```

logout

システムからログアウトするには、**logout** コマンドを使用します。

logout

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

このコマンドにデフォルト設定はありません。

コマンドモード

コマンドモード

例

次に、NAM からログアウトする例を示します。

```
root@localhost# logout
```

managed-device address

管理対象デバイスのアドレスを設定するには、**managed-device address** コマンドを使用します。

managed-device address <*ip-address*>



(注)

このコマンドは、NAM-1、NAM-2、NME-NAM-80S、NME-NAM-120S および NAM 仮想ブレードデバイスではサポートされません。

構文の説明

ip-address 管理対象デバイスの IP アドレスを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco NAM 2200 シリーズ アプライアンスでのみサポートされます。

例

次に、管理対象デバイスの IP アドレスを設定し、管理対象デバイスを表示する例を示します。

```
root@nam.cisco.com# managed-device address 10.0.0.1
root@nam.cisco.com# show managed-device
root@nam.cisco.com# 10.0.0.1
```

managed-device community

管理対象デバイスの SNMP コミュニティを設定するには、**managed-device community** コマンドを使用します。

managed-device community <*rw-community*>



(注)

このコマンドは、NAM-1、NAM-2、NME-NAM-80S、NME-NAM-120S および NAM 仮想ブレードデバイスではサポートされません。

構文の説明

rw-community 読み取り/書き込み操作の SNMP コミュニティを指定します。

デフォルト

なし。

コマンドモード

コマンドモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco NAM 2200 シリーズ アプライアンスでのみサポートされます。

例

次に、管理対象デバイスのコミュニティを設定する例を示します。

```
root@nam.cisco.com# managed-device community  
root@nam.cisco.com#
```

